

Autodesk®  
Media & Entertainment 製品  
ネットワーク管理者用ガイド

Autodesk

2012

Autodesk, Backburner, FBX, Maya, MotionBuilder, Mudbox, Softimage, and 3ds Max are registered trademarks or trademarks of Autodesk, Inc., and/or its subsidiaries and/or affiliates in the USA and/or other countries. All other brand names, product names, or trademarks belong to their respective holders. Autodesk reserves the right to alter product offerings, specifications and pricing at any time without notice, and is not responsible for typographical or graphical errors that may appear in this document. © 2011 Autodesk, Inc. All rights reserved.

# 目次

<b>第 1 章</b>	<b>ネットワーク管理と配置</b> . . . . .	<b>1</b>
	ネットワーク管理と配置 . . . . .	1
	配置を理解する . . . . .	1
	配置を計画する . . . . .	2
	配置の準備作業を確認する . . . . .	2
	インスレーションの種類を決定する . . . . .	3
	ライセンス サーバ モデルを決定する . . . . .	4
	個々の製品を環境設定する . . . . .	5
	Service Pack を含める . . . . .	6
	ネットワーク共有を作成する . . . . .	7
	配置を作成する . . . . .	8
	新しい配置を作成する . . . . .	8
	配置を修正する . . . . .	10
	ユーザに管理イメージを通知する . . . . .	11
<b>第 2 章</b>	<b>代替配布法</b> . . . . .	<b>13</b>
	代替配布法 . . . . .	13
	配置方法の概要 . . . . .	13
	スクリプトを使用してプログラムを配置する . . . . .	13
	サンプル インストール スクリプト . . . . .	14
	スクリプトでスイッチとフラグを使用する . . . . .	16

スクリプトを実行する	17
グループ ポリシーを使用して配置を実行する	18
グループ ポリシーを使用してコンピュータに配置を割り当てる	19
グループ ポリシー配置を確認する	22
Microsoft SCCM を使用して製品を配置する	22
SCCM のソース フォルダをセットアップする	23
SCCM ソフトウェア配布パッケージを作成する	24
ディスク イメージ作成ソフトウェアを使用して製品を配布する	26
マルチシート スタンドアロン製品を配布する	27
ネットワーク ライセンス製品を配布する	28
マスター イメージを復元する	28
マスター コンピュータをクリーンアップしてオペレーティング システムを復元する	29
<b>第 3 章</b>	
<b>インストールのトラブルシューティング</b>	<b>31</b>
インストールに関する質問	31
ライセンスの疑問	31
スタンドアロン ライセンスとネットワーク ライセンスの違いは何ですか?	31
ネットワーク ライセンス バージョンのソフトウェアを使用するメリットは何ですか?	32
SAMreport-Lite とは何ですか?	32
配置とネットワークの疑問	32
配置はどこに格納すればよろしいですか?	32
管理イメージに対して、どの時点ですべての製品を選択すればよいですか? また、後で製品を追加できますか? . . .	3
ユーザのコンピュータの設定に関連付けられるプロファイルとは何ですか?	33
Service Pack を追加したり合成するとどうなりますか?	34
Service Pack が自分のソフトウェアで利用できるかどうかを確認するにはどうしたらよろしいですか?	34
MSP ファイルはどうやって解凍するのですか?	34
ファイアウォールに対して、ネットワークの ライセンスをどのように環境設定すればよろしいですか?	35
アンインストールとメンテナンスの疑問	35
どうすれば、既定のインストールの内容を確認できますか?	35

	機能を追加または削除するときに、インストール フォルダを変更できますか? . . . . .	35
	どうすれば、製品をインストールした後に、ツールとユー ティリティをインストールできますか . . . . .	36
	製品を修復するのではなく再インストールするのはどんな ときですか? . . . . .	36
	製品を再インストールする場合、製品メディアは必要です か? . . . . .	36
	ソフトウェアをアンインストールするとき、システムには どのようなファイルが残りますか? . . . . .	36
<b>第 4 章</b>	<b>用語集 . . . . .</b>	<b>39</b>
	<b>索引 . . . . .</b>	<b>41</b>



# ネットワーク管理と配置

# 1

## ネットワーク管理と配置

### 配置を理解する

配置は、複数のコンピュータに1つまたは複数のオートデスク製品を標準の環境設定でインストールする有効な手段を提供します。インストレーションプロセスに必要なファイルが、ネットワーク上のすべてのユーザが共有アクセスできるフォルダ内の管理イメージに格納されます。製品をインストールするには、ユーザは配置フォルダに移動し、インストーラのショートカット(.LNK ファイル)をダブルクリックします。

---

**注:** このガイドで説明するインストーラは、Windows オペレーティングシステムにのみ該当します。ただし、いくつかの概念と手順は、Linux または Mac OS X ネットワーク上のオートデスク製品の管理者にとっても有用です。

---

配置に関するいくつかの基本的な事項を次に示します。

- 配置は、ネットワーク ライセンスまたはマルチシート スタンドアロン ライセンス用に作成できます。
- 同じフォルダに異なる環境設定の複数の配置を置くことができ、これらの配置は同じ管理イメージ(インストレーションファイルのセット)を共有できます。
- 異なる環境設定で別の配置を作成する場合、既存の配置に基づいて作成できません。
- 配置は、各インストレーションのログファイルを作成するように環境設定できます。ネットワーク管理者は、問題解決のためにこれらのログファイルを使用できます。

## 配置を計画する

### 配置の準備作業を確認する

このチェックリストには、ネットワーク配置を作成する前に完了しておく準備作業や、収集する情報、決めておくべき事項を記載しています。

---

**ヒント:** 製品の環境設定の詳細など配置設定を確認する場合は、テスト用の配置を作成できます。配置の作成プロセスを習得した後は、テスト用の配置を削除できます。

---

#### 配置のチェックリスト

- インストーラで[動作環境]リンクをクリックして、動作環境を確認します。ネットワーク、サーバ、クライアントコンピュータがこれらの動作環境を満たしていることを確認します。
- 購入したライセンスの種類一般的なインストール手順を理解します。ネットワークライセンスの配置では、ライセンスサーバ名と、ライセンス購入時に指定されたライセンスサーバモデルの種類を知っておく必要があります。詳細は、「[ライセンスサーバモデルを決定する \(4 ページ\)](#)」を参照してください。
- ネットワーク管理者ツールおよびユーティリティをインストールし、アクティブにします。たとえば、ネットワークライセンスを使用する場合は、インストーラから Network License Manager をインストールします。
- 製品のシリアル番号とプロダクトキーを確認します。これらは、製品パッケージの外側に記載されているか、オートデスクから製品をダウンロードまたはアップグレードした場合は電子メールに記載されています。
- 配置を格納するネットワークの場所を決め、配置を格納する共有フォルダを作成します。

---

## 配置のチェックリスト



製品に言語オプションがある場合は、各配置に使用する言語を決定します。

注: 言語は、最初に配置を作成するときや、新しい配置環境設定を作成するときに含めることはできますが、配置の修正時に含めることはできません。



個々のコンピュータ、配置フォルダ、またはその両方にログファイルを作成するかどうかを決定します。



サイレントモードでインストールを実行するかどうかを決定します。

注: サイレントモードで製品をインストールすると、インストール完了時に警告が表示されずにユーザのシステムが自動的に再起動します。



定義された検索パス、サポートファイルの場所、Service Pack を自動的にインストールするかどうかなど、適用可能なその他の環境設定を確認します。

## インスレーションの種類を決定する

配置をセットアップするときに、適用先のプラットフォームごとにインスレーションの種類と、ライセンスの種類を選択する必要があります。

### 適用先のプラットフォーム

配置を使用するコンピュータのオペレーティングシステムに応じて、32ビットまたは64ビットプラットフォームを指定します。オートデスク製品の中には、64ビットのオペレーティングシステム上に32ビットバージョンをインストールできるものもあります。詳細は、各製品のドキュメントを参照してください。

### ライセンスの種類

購入したライセンスの種類に基づいて、インストーラで次の種類のライセンスのいずれかを指定します。

**ネットワークライセンス** このタイプのライセンスでは、製品が1台または複数台のサーバのNetwork License Manager (NLM)と通信するうえで必要となるファイルおよびレジストリ エントリとともに、製品をネットワーク上のコンピュー

タにインストールします。NLM の環境設定も定義します。クライアント コンピュータでオートデスク製品を起動すると、NLM にライセンスを要求し、製品を停止するとライセンスを返却します。ネットワーク インストレーションで製品を実行するコンピュータは、個別にアクティベーションを行う必要はありません。詳細は、「[ライセンス サーバ モデルを選択する \(4 ページ\)](#)」を参照してください。

ネットワーク ライセンスの主な利点は、購入したライセンス数以上のシステムに製品をインストールできることです(たとえば、25 のライセンスを購入し、40 台のコンピュータにインストールできます)。製品は、購入したライセンス数分のコンピュータで同時に実行できるため、本格的なフローティング ライセンスとして使用できます。

**スタンドアロン ライセンス** このタイプのライセンスは、1 つのシリアル番号とプロダクト キーを使用して複数台のコンピュータに製品をインストールするマルチシート スタンドアロン インストレーションで使用します。このタイプのライセンスでは、製品ライセンスの管理に NLM を使用しません。代わりに、インストレーション、登録、アクティベーションは各コンピュータ上で行います。一度マルチシート スタンドアロンのシリアル番号とプロダクト キーを使用してアクティベーションを行うと、その後はこの配置を使用して、インターネットに接続されているすべてのコンピュータで自動的にアクティベーションが行われます。

## ライセンス サーバ モデルを決定する

ネットワーク ライセンス オプションを選択する場合、製品ライセンスの配布に使用されるライセンス サーバ モデルを知っておく必要があります。これは、ライセンスの購入時に次のいずれかとして指定されたものです。

- **シングル ライセンス サーバ モデル:** Network License Manager (NLM) が 1 台のサーバにインストールされるため、ライセンスの管理と動作は、このサーバに制限されます。1 つのライセンス ファイルに、サーバ上の使用可能なライセンスの合計数が記録されます。
- **分散ライセンス サーバ モデル:** ライセンスは複数のサーバに分散されます。サーバごとに、一意のライセンス ファイルが必要になります。分散ライセンス サーバを構築するには、分散サーバ プールの一部である各サーバ上で NLM を実行する必要があります。
- **冗長ライセンスサーバモデル:** 3 台のサーバが各ライセンスを認証できます。この環境設定を使用すると、少なくとも 2 台のサーバが稼働している限り、ライセンスの監視と発行が継続されます。3 台すべてのサーバ上で同じライ

センス ファイルを使用し、それぞれのサーバ上で NLM を実行する必要があります。

これらの各ライセンス サーバモデルの詳細は、『ライセンス ガイド』に記載されています。製品を配置する前に、このガイドを読むことをお勧めします。『ライセンス ガイド』を表示するには、インストーラの[インストールヘルプ]リンクをクリックします。

## 個々の製品を環境設定する

配置を作成するときに、インストールするために選択した製品の既定の設定をそのまま使用することも、それらの設定を環境設定してカスタム配置を作成することもできます。それぞれの製品の環境設定の詳細は、通常、このガイドの製品固有の付録に掲載されています。これらの付録を確認し、配置で各製品に対する正しい設定を決定することをお勧めします。

製品の設定を環境設定するには、インストーラの[配置を作成]ページで、インストールする製品を選択していることを確認し、製品名をクリックします。環境設定パネルが開きます。

---

**重要:** 選択した環境設定は、配置からインストールされる製品のすべてのインスタンスに適用されます。配置を作成した後は、配置を修正することによってのみこれらの設定を変更できます。詳細は、「[配置を修正する \(10 ページ\)](#)」を参照してください。

---

ほとんどの製品でインストールの種類を選択できます。最も一般的なオプションを選択する場合は[標準]を選択し、より詳細にオプションを検討する場合は[カスタム]を選択します。

一般的な製品のその他の設定のいくつかを次に示します。

- 製品の動作に関するユーザ設定
- サポート ファイル(マテリアル ライブラリなど)のインストール
- オンライン リソースへのアクセス

製品またはスイート製品に固有の詳細情報を参照するには、[インストールヘルプ]をクリックしてください。

## Service Pack を含める

ほとんどの製品には、配置に Service Pack を含めるオプションが用意されています。[autodesk.com](https://www.autodesk.com) から Service Pack をダウンロードしたり、ローカルハードドライブまたはネットワーク上の場所に保管されている Service Pack を使用することができます。どちらの場合も、Service Pack は、メイン製品のインストールが完了した後のみ適用されます。

[[autodesk.com](https://www.autodesk.com) にある Service Pack を使用する]ボタンを選択すると、Service Pack は自動的にダウンロードされます。MSP ファイルを展開する必要はありません。

Service Pack がローカルに保管されている場合にのみ、配置に複数の Service Pack を追加することができます。[autodesk.com](https://www.autodesk.com) からダウンロードする場合、それはできません。

---

**注:** メイン製品の配置処理がキャンセルされたり失敗した場合、Service Pack のインストールは、自動的にキャンセルされます。

---

配置に Service Pack を含めるときに使用可能なオプションは、次の 2 つです。

- **[Service Pack をこの配置に追加する]:** Service Pack を追加すると、Service Pack は現在の配置にのみ適用されます。複数の Service Pack を 1 つの配置に追加できます。Service Pack ファイルは配置に含まれており、製品が配置されてから適用されます。
- **[Service Pack を管理イメージの MSI ファイルに合成する]:** このオプションを使用すると、Service Pack は管理イメージに合成されます。いったん合成すると、Service Pack を管理イメージから除去できなくなります。

**Service Pack から Microsoft Installer Patch (MSP) ファイルを解凍するには**

- 1 ご使用の製品のサポートサイトから Service Pack をダウンロードします。
- 2 Service Pack の **Readme** ファイルを読んで、パッチの使用に関する注意を確認します。
- 3 Windows の[コマンドプロンプト]を開き、パッチファイル名、/e スイッチ、ターゲットファイル名を入力します。次に一般的なコマンド形式を示します。

```
<ローカル_ドライブ:>¥<パッチ名>.exe /e <ローカル_ドライブ:>¥<パッチ名>.msp
```

次に例を示します。

```
ProductSP1.exe /e ./ProductSP1.msp
```

ここで、**ProductSP1.exe** はダウンロードしたパッチ ファイルの名前で、**ProductSP1.msp** は解凍されるファイルの名前です。解凍されるファイル名の前に "/" を付けることによって、ダウンロードした自己解凍形式のパッチ ファイルと同じフォルダに解凍されます。"e" コマンド ライン スイッチは、実行形式から MSP ファイルを解凍します。

### Service Pack を配置に含めるには

Service Pack を配置に含めるには、ダウンロードした Service Pack ファイルから MSP ファイルを展開する必要があります。

- 1 [Service Pack を含める] ページで、[参照] ボタンをクリックします。
- 2 [ファイルを開く] ダイアログ ボックスで、配置に含める Service Pack を検索します。
- 3 MSP ファイルを選択して [開く] をクリックします。
- 4 Service Pack を配置に追加するか、Service Pack を管理イメージに合成するかを指定します。
- 5 [次へ] をクリックします。

## ネットワーク共有を作成する

配置を作成する準備が完全に整ったら、ネットワーク上の共有の場所からオートデスク製品のセットアップと配布の準備を行います。ネットワーク共有は、すべてのユーザーのコンピュータがアクセスできるインストール用のフォルダです。ネットワーク共有に配置を作成し、プログラムのインストール用として、ユーザーにこの場所を知らせます。ネットワーク共有フォルダ内のサブフォルダは、すべて自動的に共有フォルダになります。

ネットワーク ログ ファイルを作成するオプションを選択した場合、ユーザーのコンピュータはインストール中にネットワーク共有内のログ ファイルに項目を書き出します。そのため、このオプションを選択した場合、ユーザーがネットワーク共有に読み書きアクセスできるようにする必要があります。

配置作成プロセス中に、ネットワーク共有に配置フォルダを作成できます。同じ製品またはスイート製品の複数の配置を作成し、異なるユーザー グループ用に環境設定する場合、これらの配置は同じ管理イメージを共有でき、ショートカットは同じフォルダに置くことができます。ただし、別の製品またはスイート製品の

配置を作成する場合は、ネットワーク共有に別々の製品フォルダを作成してから、配置の作成を開始することをお勧めします。

ネットワーク共有の作成方法については、ご使用のオペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

## 配置を作成する

### 新しい配置を作成する

インストーラから新しい配置を作成するには、次に示す手順を使用します。このプロセスでは、インストールされる各製品の既定の環境設定を受け入れて**既定の配置**を作成したり、配置内の1つまたは複数の製品の環境設定をカスタマイズして**カスタム配置**を作成できます。

新しい配置を作成するには

- 1 コンピュータで実行中のアプリケーションをすべて閉じます。
- 2 インストーラを起動します。
- 3 最初のページで言語を選択できる場合は、配置プロセスで使用する言語を選択し、[配置を作成]をクリックします。
- 4 [<名前>の環境設定]ページの[管理イメージ]領域で、次のデータを指定します。
  - a ユーザグループを識別する配置の名前、プラットフォーム、または他の配置と区別するその他の属性を入力します。
  - b 管理イメージを作成して格納する共有ネットワークフォルダへのパスを入力するか、[参照]ボタンを使用して指定します。ユーザは、この場所からプログラムをインストールします。

**注:** ネットワーク共有を作成する方法については、「[ネットワーク共有を作成する \(7 ページ\)](#)」を参照してください。

- c 適用先のオペレーティングシステムが32ビットか64ビットかを選択します。

- d この環境設定に必要な製品のみを含めるかどうかを指定します。
    - オンにすると、今後、配置を修正して追加の製品を含めることはできなくなります。
    - オフにすると、管理イメージにすべての製品を含めることができるようになるため、現在の配置を多少なりとも修正できるようになります。
- 5 **[インストール設定]**領域で、次の1つまたは複数のオプションをオンにします。
- **サイレントモード**はバックグラウンドでインストールが実行され、ユーザに入力を要求しません。

注: サイレントモードでは、インストール後に警告を表示せずに、ユーザのコンピュータを自動的に再起動できます。
  - **各ワークステーションのログ ファイル**で、ユーザはインストレーションを確認したり、問題を解決できるようになります。
  - **サーバの場所のネットワーク ログ ファイル**で、ネットワーク管理者はすべてのインストレーションのデータを確認できるようになります。

注: ネットワーク ログ ファイルは、配置のユーザが読み書きアクセスできる共有フォルダに格納する必要があります。共有フォルダがない場合、ユーザのインストレーションのログ データはログ ファイルに書き出されません。
- 6 オートデスク ソフトウェア使用許諾契約を確認し、同意します。
- 7 **[製品情報]**ページで、ライセンスの種類を選択し、シリアル番号とプロダクトキーを入力します。このデータが有効な場合、緑のチェックマークが表示されます。
- 8 製品情報が正しいことを確認したら、**[次へ]**をクリックします。
- 9 **[配置を作成]**の環境設定ページで、配置に含める製品を選択します。
- 10 製品の環境設定が必要な場合は、製品名をクリックして環境設定パネルを開くと、設定を確認したり変更することができます。
- 重要:** 選択した環境設定は、配置からインストールされる製品のすべてのインスタンスに適用されます。配置を作成した後は、配置を修正することによってのみこれらの設定を変更できます。

環境設定の設定は、製品によって大きく異なります。詳細は、[インストール ショーン ヘルプ]をクリックして製品のドキュメントを参照してください。

- 11 [作成]をクリックして、配置を作成します。  
配置が作成されると、[配置環境設定の完了]ページが開き、新しい配置への有効なパスと、製品をオンライン登録するためのリンクが表示されます。
- 12 この画面を使用し終わったら、[完了]をクリックします。

## 配置を修正する

各配置フォルダ内には[配置を作成または修正]というショートカット(.LNK ファイル)を含む Tools フォルダがあります。このショートカットを使用して次のことが行えます。

- 新しい配置環境設定を作成する
- 既存の配置をテンプレートとして使用して新しい配置環境設定を作成する
- 既存の配置環境設定を修正する

新しい配置を作成するときと同様に、インストーラの各ページで、環境設定を行います。配置環境設定で、元の管理イメージが、必要な製品のみを含めるように設定されている場合、配置の作成または修正が制限されます。特に、元の管理イメージに含まれない製品を配置に追加することはできません。逆に、元の管理イメージが、必要な製品のみを含めるように設定されていなければ、すべての製品のファイルが元の管理イメージに含まれています。その結果、この配置を修正したり、新しい配置環境設定を作成するときに、製品を追加できます。

### 配置を修正するには

- 1 配置が格納されている共有ネットワーク フォルダを開きます。
- 2 Tools フォルダで、[配置を作成または修正]ショートカットをダブルクリックします。  
インストーラの[配置を修正]ページが表示されます。
- 3 配置環境設定の各ページで、必要なオプションをクリックして選択します。
- 4 [配置を作成]ボタンをクリックします。

## ユーザに管理イメージを通知する

配置の作成を終了すると、ユーザは、管理イメージと一緒に配置フォルダに格納されているショートカット(.LNKファイル)を使用して、プログラムをインストールできるようになります。ショートカットの名前は、配置の作成時に指定した配置の名前と同じです。ユーザにショートカットの名前と場所を通知します。ショートカットをダブルクリックしてインストールを開始するようユーザに指示します。配置がサイレントモードを使用している場合、製品のインストール後にユーザのコンピュータが自動的に再起動するので、インストール中は他のアプリケーションを終了しておくようユーザに助言します。



# 代替配布法

# 2

## 代替配布法

### 配置方法の概要

標準の配置のほかに、次に示す別の方法を使用して Windows プラットフォーム上にオートデスク プログラムを配布できます。

- スクリプト: 詳細は、「[」](#) (13 ページ)を参照してください。
- グループ ポリシー オブジェクト(GPO): 詳細は、「[グループ ポリシーを使用して配置を実行する](#) (18 ページ)」を参照してください。
- Microsoft System Center Configuration Manager(SCCM): 詳細は、「[Microsoft SCCM を使用して製品を配置する](#) (22 ページ)」を参照してください。
- ディスクイメージ作成ソフトウェア: 詳細は、「[ディスクイメージ作成ソフトウェアを使用して製品を配布する](#) (26 ページ)」を参照してください。

### スクリプトを使用してプログラムを配置する

スクリプトは、1つまたは一連のコマンドを実行します。スクリプトはバッチファイルに似ていますが、より柔軟です。インストレーション スクリプトは、ネットワークに接続されたコンピュータ上に、プログラムをスタンドアロンインストレーションするときに、非常に便利です。スクリプトはネットワークで、Service Pack (Update)、拡張機能(Subscription Advantage Pack)、Object Enabler をインストールする場合にも便利です。

テキスト エディタ([メモ帳]など)を使用してスクリプトを作成し、次にファイル拡張子を .VBS にして ASCII 形式で保存します。スクリプトは、1 つまたは複数のコマンド、オプションを指定するコマンド スイッチと、オプションを変更するフラグから成り立ちます。インストール スクリプトにはパス名も含まれます。

インストール スクリプトは、製品の **setup.exe** ファイルの場所を指定します。必ず、製品メディアの **setup.exe** を指定してください。例:

#### **Autodesk 製品 CDROM1¥setup.exe**

オートデスク製品を正しく実行するには、プログラムがインストールされるコンピュータの管理者権限があり、次のソフトウェアがインストールされている必要があります。

- Microsoft Internet Explorer バージョン 6.0 Service Pack 1 以降。

Microsoft Internet Explorer は、Microsoft の Web サイト [www.microsoft.co.jp](http://www.microsoft.co.jp) からダウンロードできます。

■

- Microsoft Scripting Engine

このセクションのサンプル スクリプトは、Microsoft Scripting Engine 5.6 に基づいています。Microsoft Scripting Engine 5.6 は VBScripts と JavaScript の両方が動作します。このスクリプト エンジン、MSDN の Web サイトから無料でダウンロードできます。 [www.msdn.microsoft.com](http://www.msdn.microsoft.com) で、Scripting というキーワードで検索してください。サンプル スクリプトとヘルプ ファイルも、そこからダウンロードできます。

## サンプル インストール スクリプト

このセクションのサンプル スクリプトは、標準設定でプログラムをインストールします。このサンプル スクリプトをコピーして、パーソナル情報を書き換えやすくするため、変数には同じ名前を使用してください。ログ ファイル名はインストールされる製品名に基づきます。スクリプトの中のログ ファイル名を使用することも、ログ ファイル名を他の名前に変更することも可能です。

シリアル番号の先頭 3 桁: 123

シリアル番号の残り 8 桁: 12345678

このプログラムのサイレント インストール用のサンプル スクリプトは、このセクションで説明する構文を使用しています。

## AutoCAD のインストール シクリプト

```
' Scripted installation for AutoCAD 2012 - English Option
explicit

' Create variables dim shell dim productType dim
strADSKSNPrefix dim strADSKSNNumber dim strADSKProdKey dim
strLocale dim strACADStandaloneNetworkType dim
strADSKLicenseServerType dim strADSKLicenseType dim
strADSKServerName dim strADSKServerPath dim
strADSKServerHostID dim strADSKPath dim strSourcePath '

' Script initialization Set shell =
CreateObject("WScript.Shell") productType = "ACAD"

' Serial Number information strADSKSNPrefix = "123"
strADSKSNNumber = "12345678" strADSKProdKey="ABCDE" 'Locale
information, for example en-US = US English, de-DE =
Deutschland German, ja-JP = Japan Japanese strLocale="en-US"
' en-US, de-DE, ja-JP '

' Source to install from (e.g. D: is assumed to be Install
Media) strSourcePath = "D:¥" ' ' Destination to install
to strADSKPath =
Shell.ExpandEnvironmentStrings("%ProgramFiles%") +
"¥Autodesk¥" + "AutoCAD 2012" If strLocale <> "" Then
strADSKPath = strADSKPath + " " + strLocale strADSKPath =
strADSKPath + "¥"

' Uncomment the relevant version of your installation -
Default is Standalone ' For Standalone RunStandaloneInstall()
' ' For Single Network License Server
'RunSingleLicenseServerInstall() ' ' End of Script
Wscript.quit()

' Function RunStandaloneInstall shell.run
DefaultCommand(),2,1 end function

' Function RunSingleLicenseServerInstall ' Update with the
correct information for the license server
strACADStandaloneNetworkType = "3" strADSKLicenseServerType
= "Single Server License" strADSKLicenseType = "Network
License" strADSKServerPath = "myFlexNetServer" ' HOSTID or
MAC address strADSKServerHOSTID = "000000000000" ' '
Consolidate the two values strADSKServerPath =
```

```

strADSKServerPath & " " & strADSKServerHOSTID shell.run
MakeCommand(),2,1 end function

' Function DefaultCommand dim retString ' /qb for silent
install ' /c [key] override parameters for the key ' /w
wait until installation completes before returning to script
' /o reboot after install completes retString = "" &
strSourcePath & "%setup.exe" & "" & " /t /qb " If
strLocale <> "" then retString = retString & "/Language "
& strLocale End if retString = retString & " /c " &
productType & ": " retString = retString & "INSTALLDIR="
& "" & strADSKPath & "" & " " retString = retString &
"ACADSERIALPREFIX=" & strADSKSNPrefix & " " retString =
retString & "ACADSERIALNUMBER=" & strADSKSNNumber & " "
retString = retString & "ADLM_PRODKEY=" & strADSKProdKey
& " " retString = retString & "InstallLevel=5 "
DefaultCommand = retString & " " end function

' Function MakeCommand dim retString retString =
DefaultCommand() & " " retString = retString &
"ACADSTANDALONENETWORKTYPE=" & "" &
strACADStandaloneNetworkType & "" & " " retString =
retString & "ACADLICENSESERVERTYPE=" & "" &
strADSKLicenseServerType & "" & " " retString = retString
& "ACADLICENSETYPE=" & "" & strADSKLicenseType & ""
& " " retString = retString & "ACADSERVERPATH=" & "" &
strADSKServerPath & "" & " " MakeCommand = retString end
function

```

## スクリプトでスイッチとフラグを使用する

次の表は、インストールに使用できるいくつかのスイッチとフラグの一覧です。個々の製品は、インストール データとプロセスを反映する他のスイッチやフラグを使用します。

注: インストール スイッチを INSTALLDIR= に設定しなければなりません。これを行わないと、他のプログラム(ライセンス転送ユーティリティなど)がインストールされません。

#### インストール スクリプト内のスイッチ

スイッチ	説明
INSTALLDIR=	製品をインストールする場所を指定します。
ACADSERIALPREFIX=	シリアル番号のハイフンより前の番号を指定します。
ACADSERIALNUMBER=	シリアル番号のハイフンより後の番号を指定します。
ADLM_PRODKEY=	プロダクト キー(シリアル番号と同じラベルに記載)を指定します。

#### ユーザ インタフェース フラグ

フラグ	説明
q	インストールがサイレント モードで実行されることを指定します。

## スクリプトを実行する

スクリプトを作成した後、スクリプトをサーバ、ドライブ文字が割り当てられたネットワークドライブ、UNC(universal naming convention)パスのいずれかに移動します。スクリプトをユーザが実行するためにサーバに格納する場合は、サーバに共有フォルダを作成します。次に、ユーザに適切な権限を与えて、ネットワーク共有にユーザを追加します。スクリプトを実行するユーザには、共有フォルダに対する読み取りアクセス権が必要です。

次に、サーバの他の場所に、インストールする各製品のフォルダを作成します。このフォルダには、変更される予定がない場所を選択します。これにより、スクリプトで MSI ファイルの場所を指定できるようになります。製品メディアから

このフォルダにインストレーション ファイルをコピーします。Service Pack (Update)、拡張機能(Subscription Advantage Pack)、独自のカスタマイズ ツールなどのフォルダも必要に応じて作成します。

次のいずれかの方法を使用して、インストレーションスクリプトを実行します。

- 個々のコンピュータで、スクリプトを手動で実行します。インストレーションを実行するために、[ファイル名を指定して実行]ダイアログ ボックスにスクリプト名を指定するか、[Windows コマンド プロンプト]でスクリプトを実行します。
- スクリプトを実行する各ユーザに、UNC パスと必要な指示を記載した電子メールを送信します。
- 各ユーザにスクリプトと使用方法を電子メールで送ります。
- スクリプトをセットアップして、ログオン時に実行します。

## グループ ポリシーを使用して配置を実行する

グループ ポリシーを使用して、コンピュータに配置を割り当てることで、プログラムをアドバタイズおよびインストールできます。コンピュータに割り当てられた配置は、そのコンピュータの任意のユーザが使用できます。通常、複数のユーザが共有するコンピュータに配置を割り当てます。

---

**注:** オートデスク製品は、コンピュータにインストールされ、そのコンピュータにログオンした任意のユーザが製品を実行できるように設計されています。配置をコンピュータにではなく、特定のユーザに割り当てた場合、2人目のユーザがプログラムをインストールまたはアンインストールしようとする、問題が発生することがあります。

---

グループ ポリシー使用の長所と短所の概要を次に示します。

### 長所

- 配置機能と一緒に動作します。
- 配置にカスタム ファイルを追加できます。
- ユーザに配置するのではなく、コンピュータに配置します。

## 短所

- MSI実行ファイルにコマンドラインパラメータを渡すことができません。代わりに、スクリプトを使用する必要があります。
- 配置を作成するときに設定した内容以外に、アプリケーションの設定をカスタマイズすることはできません。

通常、オートデスク製品には、オートデスク製品をサポートするためにコンピュータにインストールしなければならないソフトウェア要件があります。特に、Microsoft .NET Framework 4.0、Fusion、Fusion plug-in は、グループポリシーを使用する前にインストールしなければなりません。製品を配布する前に、各製品の「システム要件」を検討し、プログラムをインストールするコンピュータにそれらがインストールされていることを確認します。

グループポリシーを使用してのプログラムの配布には、次の3つの主要な段階があります。

- 1 **アプリケーション配布ポイント(管理イメージ)を作成します。** アプリケーション配布ポイントは、配置の作成時に作成されます。配置を作成するには、「[新しい配置を作成する \(8 ページ\)](#)」を参照してください。
- 2 **コンピュータに配置を割り当てます。** 詳細は、「[グループポリシーを使用してコンピュータに配置を割り当てる \(19 ページ\)](#)」を参照してください。
- 3 **インストレーションを確認します。** プログラムが正しくインストールされているか確認します。詳細は、「[」 \(22 ページ\)](#)」を参照してください。

## グループポリシーを使用してコンピュータに配置を割り当てる

グループポリシー管理コンソール(GPMC)がインストールされていて、Active Directory サーバにアクセスできる Windows XP コンピュータ、Windows 2000 サーバ、Windows 2003 サーバから、次の手順を実行します。

---

注: 詳細は、[Microsoft TechNet](#) で "Group Policy Management Console" を検索してください。

---

## 配置をコンピュータに割り当てるには

- 1 グループ ポリシー管理コンソール(*gpmmc.msc*)を開始します。
- 2 グループ ポリシー オブジェクトを作成する組織単位を右クリックします。次に、[ここに GPO を作成およびリンク]を選択し、グループ ポリシーの名前を指定します。
- 3 ポリシーを編集します。
- 4 [グループ ポリシー オブジェクト エディタ]ダイアログ ボックスの[ソフトウェアの設定]ノードで、[ソフトウェアのインストール]を右クリックし、[新規] ▶ [パッケージ]を選択します。
- 5 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、配置プロセスで作成した管理イメージの場所に移動します。 **AdminImage¥<プロセッサの種類>¥<製品名フォルダ>** を指定します。プロセッサの種類は、配置で作成したプロセッサの種類に応じて、x86 か x64 のどちらかです。

---

### 例

---

x86 配置の場合:

**¥server123¥Deployment¥AdminImage¥x86¥acad**

---

x64 配置の場合:

**¥server123¥Deployment¥AdminImage¥x64¥acad**

---

- 6 **acad-<配置名>-for-GPO.msi** という名前の MSI(Windows Installer Packages)ファイルを選択します。[開く]をクリックします。  
配置の名前が "Design 2012 32 bit" の場合、配置の MSI ファイルの名前は、**acad-Design 2012 32 bit-for-GPO.msi** となります。
- 7 [ソフトウェアを配置]ダイアログ ボックスで、[詳細設定]を選択し、[OK]をクリックします。
- 8 [プロパティ]ダイアログ ボックスの[修正]タブで、[追加]をクリックします。
- 9 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、**acad-<deployment name>.mst** という名前の Transform Package ファイルを選択します。[開く]をクリックします。
- 10 [プロパティ]ダイアログ ボックスの[修正]タブで、[追加]をクリックします。

- 11 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、<deployment location>¥Tools に移動し、**gpo.mst** という名前の Transform Package ファイルを選択します。
- 12 [OK]をクリックし、パッケージを完成させます。

## Language Pack を追加する

製品が Language Pack(言語パック)を使用する場合、パッケージに言語パックを追加する必要があります。

### Language Pack(言語パック)を追加するには

- 1 [グループ ポリシー オブジェクト エディタ]ダイアログ ボックスの[ソフトウェアの設定]ノードで、同じオブジェクトの[ソフトウェアのインストール]を右クリックし、[新規] ▶ [パッケージ]を選択します。
- 2 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、配置の作成時に指定した管理イメージの場所に移動します。**AdminImage¥<プロセッサの種類>¥<地域>¥acad** を指定します。[開く]をクリックします。  
<地域> は、たとえば米国英語には **en-us** が使用されます。

---

#### 例

---

x86 配置の場合: ¥¥server123¥Deployment¥AdminImage¥x86¥en-us¥acad

---

x64 配置の場合: ¥¥server123¥Deployment¥AdminImage¥x64¥en-us¥acad

---

- 3 [ソフトウェアを配置]ダイアログ ボックスで、[詳細設定]を選択し、[OK]をクリックします。
- 4 [<製品名>のプロパティ]ダイアログ ボックスの[修正]タブで、[追加]をクリックします。
- 5 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、**AdminImage¥<プロセッサの種類>¥acad**にある **acad-<配置名>.mst** という名前の Transform Package ファイルを選択します。[開く]をクリックします。
- 6 [<製品名>のプロパティ]ダイアログ ボックスの[修正]タブで、[追加]をクリックします。

- 7 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、**<deployment location>¥Tools** に移動し、**gpo.mst** という名前の Transform Package ファイルを選択します。
- 8 [OK]をクリックし、パッケージを完成させます。

これで、作成した GPO の組織単位のメンバーになっているすべてのコンピュータに、GPO が割り当てられました。組織単位内のコンピュータを次に再起動すると、プログラムがインストールされ、コンピュータのすべてのユーザが使用可能になります。グループ ポリシーが正しく作成されたことを確認するには、「[グループ ポリシー配置を確認する \(22 ページ\)](#)」を参照してください。

## グループ ポリシー配置を確認する

この配置が正しくコンピュータに割り当てられたことを確認するには、作成したグループ ポリシーの組織単位に含まれるコンピュータを再起動します。ログオン プロンプトが表示される前に、プログラムのインストールが開始されます。オペレーティング システムによって、グループ ポリシー メッセージが表示されます。これには、管理ソフトウェアのインストールを示すメッセージも含まれません。

インストールを終了し、プログラムを開始するには、ログオン後、デスクトップに表示されているプログラム アイコンをダブルクリックします。

---

**注:** 問題が発生した場合は、[イベント ビューア]の[アプリケーション]にイベントが記録されます。

---

## Microsoft SCCM を使用して製品を配置する

Microsoft System Center Configuration Manager(SCCM)を使用すると、選択した適用先システムへのソフトウェアの配布を、リモート処理で管理できます。このトピックの詳細は、[Microsoft TechNet](#) で "System Center Configuration Manager" を検索してください。

---

**注:** SCCM を使用してオートデスク製品を配布する前に、それぞれの配布先コンピュータに、Microsoft .NET Framework 4.0 がインストールされている必要があります。

---

SCCM を使用してオートデスク製品を配置するには、次の手順に従うことをお勧めします。

- 1 ソフトウェアパッケージを受け取るターゲットコンピュータのコレクションを特定するか作成します。
- 2 インストーラの[配置を作成]プロセスを使用して、ソース フォルダを作成します。詳細は、「[SCCMのソースフォルダをセットアップする \(23 ページ\)](#)」を参照してください。
- 3 SCCM パッケージを作成してターゲットシステムに配置し、ソフトウェアパッケージが使用可能であることをユーザに通知します。詳細は、「[SCCM ソフトウェア配布パッケージを作成する \(24 ページ\)](#)」を参照してください。

---

**注:** SCCM による Windows XP への DirectX 9.0C の配布は、サポートされていません。オートデスク製品を正常に実行するには、DirectX 9.0C を製品メディア(<メディア>¥3rdParty¥DirectX¥DXSETUP.exe)から手動でインストールする必要があります。DirectX 9.0C のこのバージョンは、オートデスク製品で使用するためにカスタマイズされています。

---

## SCCM のソース フォルダをセットアップする

オートデスク製品の配置に SCCM を使用するときは、インストーラの[配置を作成]プロセスを使用してソース フォルダをセットアップします。

[配置を作成]プロセスにより管理イメージが作成され、SCCMはこの管理イメージを使用して、オートデスク製品を目的のコンピュータに配布します。管理イメージの場所が、パッケージ ソース フォルダです。

オートデスクソフトウェアの配置とソース フォルダの設定の詳細は、「[配置を理解する \(1 ページ\)](#)」を参照してください。

---

**注:** SCCM を環境設定して製品を配置する前に、配置をテストし、製品が正常にインストールできるか確認することをお勧めします。

---

配置をテストするには

- 1 管理者権限を持つユーザとして、Windows コンピュータにログオンします。
- 2 管理イメージが作成されたソース フォルダに移動します。

- 3 配置プロセスによって作成された配置のショートカットをダブルクリックします。  
プログラムがインストールされるか、エラー情報が %temp% のログ ファイルに書き出されます。

## SCCM ソフトウェア配布パッケージを作成する

配置プロセスを使用してソース フォルダを作成した後、SCCM ソフトウェア配布パッケージを作成します。SCCM パッケージには、ソフトウェアを配布したり、ユーザにパッケージをアドバタイズするためのファイルと命令が含まれます。配置プロセスで独自のファイルと命令が作成されますが、SCCM は、SCCM の配布用ファイルを使用するように環境設定する必要があります。

**SCCM を使用してソフトウェア配布パッケージを作成するには**

- 1 [スタート]メニュー ▶ [プログラム]または[すべてのプログラム] ▶ [Microsoft System Center] ▶ [Configuration Manager 2007] ▶ [ConfigMgr Console]を選択します。
- 2 [Configuration Manager Console]ウィンドウで、[Software Distribution]を展開します。
- 3 [Packages]を右クリック ▶ [Distribute] ▶ [Software]を選択します。
- 4 [Distribute Software]ウィザードで、[Next]をクリックします。
- 5 [Package]ダイアログ ボックスで、[Create a New Package and Program without a Definition File]を選択します。[Next]をクリックします。
- 6 [Package Identification]ダイアログ ボックスで、名前、バージョン、配布者、言語、任意のコメントなどの情報を入力します。[Next]をクリックします。
- 7 [Source Files]ダイアログ ボックスで、SCCM がファイルを取得する場所と、それらの管理方法を選択します。[Always Obtain Files from a Source Directory]を選択します。[Next]をクリックします。
- 8 [Source Directory]ダイアログ ボックスで、ソース フォルダの場所を指定します。[Next]をクリックします。
- 9 [Distribution Points]ダイアログ ボックスで、配布ポイントを選択します。これは、ターゲット コンピュータに配置するソフトウェア パッケージの場所です。[Next]をクリックします。

- 10 [Program Identification]ダイアログ ボックスで、プログラムの名前を入力します。これは、[コントロール パネル]の[プログラムの追加と削除]に表示される名前です。[Command Line]フィールドに、**AdminImage¥setup.exe/W/Q/I AdminImage¥<deployment name>.ini/Lang ja-JP** と入力します。たとえば、配置の名前が Adsk-2012 の場合、**AdminImage¥setup.exe /W /Q /I AdminImage¥Adsk-2012.ini /Lang ja-JP** と入力します。[Next]をクリックします。

注: この例では、インストールする言語パックは日本語(JA Japanese)です。/WはSMSおよびSCCMのフラグ、/Qはサイレントインストール、/Iは配置インストレーションを示します。

- 11 [Program Properties]ダイアログ ボックスの[Program Can Run]ドロップダウンリストで、プログラムのインストール方法を選択します。次のいずれかを選択します。
- Only When a User is Logged On
  - Whether or Not a User is Logged On
  - Only When No User is Logged On
- 12 [After Running]ドロップダウン リストで、プログラムがインストールされた後に必要な動作を選択します。次のいずれかを選択します。
- No Action Required
  - Program Restarts Computer
  - ConfigMgr Restarts Computer
  - ConfigMgr Logs User Off

注: 一部の製品は、インストール後にシステムを再起動する必要があります。

[Next]をクリックします。

- 13 [Advertise Program]ダイアログ ボックスで、[Yes]を選択してプログラムをユーザにアドバタイズします。[Next]をクリックします。
- 14 [Select a Program to Advertise]ダイアログ ボックスで、アドバタイズするパッケージを選択します。[Next]をクリックします。
- 15 [Select Program] ▶ [Advertisement Target]ダイアログ ボックスで、アドバタイズするユーザのコレクションを選択するか、新しいコレクションを作成します。

- 16 [Select Program] ▶ [Advertisement Name]ダイアログ ボックスで、アドバタイズの名前を入力、または変更します。アドバタイズを説明するための任意のコメントを記入します。[Next]をクリックします。
- 17 [Select Program] ▶ [Advertisement Subcollection]ダイアログ ボックスで、次のオプションのいずれかを選択します。
  - Advertise this Program to an Existing Collection
  - Create a New Collection and Advertise this Program to It
- 18 [Next]をクリックします。
- 19 [Select Program] ▶ [Advertisement Schedule]ダイアログ ボックスで、必要に応じて、指定した日時にプログラムをアドバタイズするオプションを設定したり、期限を設定します。[Next]をクリックします。
- 20 [Select Program] ▶ [Assign Program]ダイアログ ボックスで、次のオプションのいずれかを選択します。
  - インストレーションプロセスが必須の場合は、[Yes, Assign the Program]を選択します。
  - インストレーションプロセスが省略可能な場合は、[No, Do Not Assign the Program]を選択します。[Next]をクリックします。
- 21 [Summary]ダイアログ ボックスで、アドバタイズ情報を確認します。訂正するには、[Back]ボタンを使用します。[Next]をクリックして完了します。

## ディスクイメージ作成ソフトウェアを使用して製品を配布する

Norton Ghost などのディスク イメージ作成ソフトウェアを使用してマスターイメージを作成し、オートデスク製品を配布できます。マスターイメージを作成したら、ユーザの責任で他のコンピュータに移し替えることができます。

---

**重要:** オートデスクは、ディスク イメージ作成ソフトウェアを使用した製品の配布をお勧めしません(サポートの対象ではありません)。しかし、この方法で配布を予定している場合は、以下の説明を注意深くお読みください。

---

ディスク イメージ作成ソフトウェアを使用すると、製品のライセンスに矛盾が生じたり、インストールが不完全に終了したり、アクティベーションで問題が発生することがあります。

---

注: SATA RAID 環境でライセンスが不安定になったことがある場合、ディスクイメージ作成ソフトウェアを使用してオートデスク製品を配布すると、製品をアクティベーションするときに、たとえば「アクティベーション コードが制限を超える」という問題が発生する可能性があります。

---

## マルチシート スタンドアロン製品を配布する

マスター イメージを使用してマルチシート スタンドアロン製品を複数のコンピュータに配布できます。

---

注: Norton Ghost を使用する場合は、**-ib** スイッチを使用して、作成するマスター イメージにブート セクタを含める必要があります。ブート セクタをマスター イメージの一部に含める方法についての詳細は、ご使用のディスク イメージ作成ソフトウェアを参照してください。

---

マスター コンピュータで一度でもオートデスク製品を実行した場合は、マスター イメージを作成しないでください。システムのクリーンアップが必要です。詳細は、「[マスター コンピュータをクリーンアップしてオペレーティング システムを復元する \(29 ページ\)](#)」を参照してください。

マスター イメージを使用して、マルチシート スタンドアロン製品を複数のコンピュータに配布するには

- 1 マルチシート スタンドアロン製品に対するネットワーク配置を作成します。詳細は、「[新しい配置を作成する \(8 ページ\)](#)」を参照してください。
- 2 配置からマスター コンピュータにオートデスク製品をインストールします。
- 3 マスター コンピュータで次のいずれかの操作を行います。
  - ブート セクタを含むマスター イメージを作成します。製品を配布する前に、マスター コンピュータ以外のコンピュータで製品をテストします。他のコンピュータで製品を起動し、登録とアクティベーションを行います。ユーザは製品の登録およびアクティベーションに対して試用期間があります。
  - 必要に応じて、製品を起動してカスタマイズします。マスター イメージを作成し、ユーザに配布します。ユーザのコンピュータがインターネットに接続されている場合、製品は自動的にアクティベーションされます。ユーザのコンピュータがインターネットに接続されていない場合

は、製品の登録およびアクティベーションに対して7日間の猶予期間があります。

- 4 マスター イメージを目標のコンピュータに適用します。

## ネットワーク ライセンス製品を配布する

マスター イメージを使用して、ネットワーク ライセンス製品を配布できます。

マスター イメージを使用してネットワーク ライセンス製品を複数のコンピュータに配布するには

- 1 ネットワーク ライセンス製品に対するネットワーク配置を作成します。詳細は、「[新しい配置を作成する \(8 ページ\)](#)」を参照してください。
- 2 配置からマスター コンピュータに製品をインストールします。

注: 製品がライセンスを取得するには、ライセンス サーバが実行され、各コンピュータがネットワークに接続されていなければなりません。

- 3 製品をインストールした後、ディスクイメージ作成ソフトウェアを使用して、コンピュータのハード ドライブのマスター イメージを作成します。
- 4 マスター イメージを目標のコンピュータに適用します。

## マスター イメージを復元する

次の手順は、コンピュータを再フォーマットする前に、各コンピュータの **AdLM** フォルダ(および、存在する場合は **Product Licenses** フォルダ)のコピーが、他のコンピュータまたはディスクに保存されていることを前提としています。

マスター イメージを使用して製品を復元するには

- 1 アプリケーションを終了します。ここに示す手順が完了するまで、アプリケーションを再実行しないでください。
- 2 Windows エクスプローラで、**AdLM** フォルダを、次に示すパスから、復元するディスク以外の場所にコピーします(Windows XP の例)。  
**C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\FLEXnet**
- 3 コンピュータを再フォーマットし、マスター イメージを復元します。

注: ハード ドライブの簡易フォーマットは実行しないでください。

- 4 手順2で作成した **AdLM** フォルダを、再フォーマットしたコンピュータの元の場所にコピーします。

---

注: ディスクイメージを復元すると、変更されたすべてのファイルが元の状態に戻され、再び使用することができるようになります。ライセンス ファイルは保護され、製品のアクティベーションを再度行う必要はありません。

---

## マスター コンピュータをクリーンアップしてオペレーティング システムを復元する

マスターコンピュータでオートデスク製品を既に実行している場合は、マスターイメージを作成する前に、マスター コンピュータを完全にクリーンアップする必要があります。

マスター コンピュータをクリーンアップし、オペレーティング システムを復元するには

- 1 ブート セクタを含め、ハード ドライブをクリーンアップします。  
たとえば、Norton の GDISK ユーティリティを使用している場合は、次のコマンドを使用します。

***gdisk 1 /diskwipe***

ここで、**1**はクリーンアップするハード ディスクです。

注: Norton Ghost 以外のユーティリティを使用する場合は、必ずブートセクタもクリーンアップしてください。さもないと、オートデスク製品をアクティベーションできなくなります。

- 2 新しいパーティションを作成し、復元用ディスクまたは製品メディアを使用して、オペレーティング システムをインストールします。



# インストールのトラブル シューティング

# 3

## インストールに関する質問

このセクションでは、インストールと配置に関するよくある質問を紹介します。その他のアドバイスとサポートについては、[オートデスク サポート](#) にアクセスし、製品名を選択してから、製品のナレッジベースで検索してください。

### ライセンスの疑問

#### スタンドアロン ライセンスとネットワーク ライセンスの違いは何ですか？

スタンドアロン ライセンスは、個々のユーザに対して1つまたは複数のオートデスク製品をサポートします。同様に、マルチシート スタンドアロン ライセンスは、一定数のユーザをサポートします。組織内の追加のコンピュータにソフトウェアをインストールできますが、ユーザのライセンス数を超えてインストールすることはできません。

ネットワーク ライセンスは、ネットワークに接続しているユーザの最大数までサポートします。ソフトウェア ユーティリティの Network License Manager(NLM)が、購入ライセンスの最大数までユーザにライセンスを発行します。現時点では、購入ライセンス数を超えるコンピュータでは、ライセンスが NLM に返却されるまではオートデスク製品を実行できません。

## ネットワーク ライセンス バージョンのソフトウェアを使用するメリットは何ですか？

大きな製図/設計組織や教室など多数のユーザをサポートする必要がある環境では、ネットワーク ライセンスを使用すると、ライセンスの管理が容易になります。Network License Manager でライセンスの登録、アクティベーション、ユーザへの配布など、ライセンスを集中的に管理できます。ネットワーク ライセンスの主な利点の 1 つは、購入したライセンス数以上のコンピュータに製品をインストールできることです。たとえば、25 のライセンスを購入し、利便性をよくするために 40 台のコンピュータにインストールできます。製品は、購入したライセンス数分のコンピュータで同時に実行できます。つまり、本格的なフローティング ライセンスとして使用できます。また、ネットワーク ライセンス システムでは、ユーザは有効期間中であれば、ネットワークに接続していないコンピュータでライセンスを借用して使用できるように環境設定することもできます。

## SAMreport-Lite とは何ですか？

SAMreport-Lite は、FLEXnet を使用する製品のネットワーク ライセンスの使用状態をモニタするためのレポート作成ソフトウェアです。SAMreport-Lite は オートデスク製品とともに配布されませんが、オートデスクから入手できます。SAMreport-Lite を使用すると、ソフトウェア ライセンスの管理に役立ちます。詳細は、[SAMreport-Lite](#) を参照してください。

## 配置とネットワークの疑問

### 配置はどこに格納すればよろしいですか？

配置を格納するシステムのデスクトップに **Deployments** という名前のネットワーク共有フォルダを作成することをお勧めします。共有フォルダを作成したら、製品の配置を反映したサブフォルダ名を追加することができます。同じ製品またはスイート製品の複数の配置を作成し、異なるユーザグループ用に環境設定する場合、これらの配置は同じ管理イメージを共有でき、ショートカットは同

じフォルダに置くことができます。共有フォルダ内のサブフォルダは、すべて自動的に共有フォルダになります。

ネットワーク共有の詳細は、「[ネットワーク共有を作成する \(7 ページ\)](#)」を参照してください。

## 管理イメージに対して、どの時点ですべての製品を選択すればよいですか？ また、後で製品を追加できますか？

すべての製品を配置に含めると、管理イメージが大きくなりますが、配置の修正や新しい配置の作成について制限がなくなります。[この配置環境設定に必要な製品のみを含める]チェックボックスをオンにすると、配置には使用可能な製品のサブセットが含まれるようになります。この配置に対する修正や、最初の配置に基づく追加の配置は、同じ製品セット以下に制限されます。

異なる製品を含むこの管理イメージから複数の配置を作成する予定があり、再度インストレーション メディアを使用したくない場合は、選択可能なすべての製品を含めることをお勧めします。決して使用しない製品があるか、追加の配置を作成する予定がない場合は、製品のサブセットを選択してください。

後日、別の配置を作成して追加の製品を含めることはできますが、これを行うには、インストレーション メディアから新しい管理イメージを作成する必要があります。

## ユーザのコンピュータの設定に関連付けられるプロファイルとは何ですか？

プロファイルは、[オプション]ダイアログ ボックスの[プロファイル]タブで作成されます。プロファイルには、図面ベースのシステム変数だけでなく、ほとんどすべての環境設定が含まれます。たとえば、サポート パス、グリップ設定、印刷設定などが含まれます。

配置プロセス中に[ユーザ設定を指定]ページでプロファイルを指定すると、その配置を使用して製品をインストールするすべてのコンピュータの標準の環境設定になります。

## Service Pack を追加したり合成するとどうなりますか？

Service Pack を追加すると、Service Pack は現在の配置にのみ適用されます。Service Pack ファイルは配置に含まれており、Service Pack は製品が配置されてから適用されます。

Service Pack を合成すると、Service Pack は管理イメージに合成されます。いったん合成すると、Service Pack を管理イメージから除外できなくなります。

配置の作成時に、製品の環境設定パネルから Service Pack を追加または合成できます。

## Service Pack が自分のソフトウェアで利用できるかどうかを確認するにはどうしたらよろしいですか？

パッチまたは Service Pack が使用可能かどうかを確認するには、<http://autodesk.com/servicesandsupport> にアクセスします。

## MSP ファイルはどうやって解凍するのですか？

このトピックは、Windows プラットフォームにのみ該当します。Microsoft パッチ(MSP)ファイルは、通常、ご使用の製品のサポート Web サイトからダウンロードできる実行可能形式の Service Pack に含まれています。実行ファイルから、MSP ファイルを解凍するには、`/e` スイッチを使用して Windows コマンド プロンプトから、パッチプログラムを実行します。構文は次のとおりです。

```
<ローカル_ドライブ:>%<パッチ名>.exe /e<ローカル_ドライブ:>%<パッチ名>.msp
```

ファイルが解凍される場所に注意してください。パッチ ファイルを使用する方法については、パッチの **Readme** ファイルを参照してください。

## ファイアウォールに対して、ネットワークのライセンスをどのように環境設定すればよろしいですか？

ライセンス サーバとクライアント コンピュータの間にファイアウォールが存在する場合は、ライセンス関連の通信のために、いくつかのTCP/IP ポートを開く必要があります。**adskflex** のためにポート 2080 を、**lmgrd** のためにポート 27000 から 27009 を開いてください。

## アンインストールとメンテナンスの疑問

### どうすれば、既定のインストレーションの内容を確認できますか？

既定のインストレーションでインストールされる内容を確認するには、製品の環境設定ページまでインストール手順を進めます。そこで選択されている製品が、既定のインストレーションでインストールされます。選択した製品ボックスをクリックして環境設定パネルを開くと、サブコンポーネントと機能の既定の設定を確認できます。

### 機能を追加または削除するときに、インストレーション フォルダを変更できますか？

製品をインストールした後は、インストレーションパスを変更することはできません。機能を追加するときにパスを変更すると、プログラムが破損することがあるので、変更はできません。

## どうすれば、製品をインストールした後に、ツールとユーティリティをインストールできますか□

製品メディアから再度インストーラを実行し、最初の画面で[ツールとユーティリティ]をクリックします。インストーラで、ツールとユーティリティの選択、環境設定、インストールを行います。

## 製品を修復するのではなく再インストールするのはどんなときですか？

プログラムで必要なファイルを誤って削除したり変更した場合に、製品を再インストールします。欠損ファイルまたは変更されたファイルは、製品のパフォーマンスに悪影響を及ぼし、コマンドまたはファイルの検索を実行しようとした場合にエラーメッセージが表示されます。

インストールの修復に失敗した場合は、再インストールが次善の策です。

## 製品を再インストールする場合、製品メディアは必要ですか？

はい。製品を再インストールするときに、製品メディアを挿入するように求められます。製品がネットワーク配置からインストールされた場合は、後で Service Pack が追加されるなどして変更されたものではない元の配置にアクセスする必要があります。

## ソフトウェアをアンインストールするとき、システムにはどのようなファイルが残りますか？

製品をアンインストールすると、作成または編集したファイル(たとえば、図面やカスタムメニュー)など、一部のファイルがコンピュータに残ります。

また、ライセンス ファイルもコンピュータに残ります。同じコンピュータに再インストールする場合、ライセンス情報は有効なままなので、再度製品のアクティベーションを行う必要はありません。



## 用語集

# 4

**アクティベーション** オートデスク ソフトウェアの登録プロセスの一部で、製品のソフトウェア使用許諾契約に従って製品を実行できるようにします。

**管理イメージ** 配置プロセスにより作成された共有ファイル リソースのコレクションで、プログラムをネットワーク コンピュータにインストールするために使用されます。

**配置** ネットワーク上の 1 つまたは複数のコンピュータにオートデスク製品をインストールする処理。

**ホット フィックス** 少数のコード修正を含むマイナーなアプリケーション パッチに対するオートデスク用語。

**インストレーション イメージ** 1 つまたは複数の MSI ファイルとその関連データ ファイル、関連するトランスフォーム、追加のユーザ固有のカスタム ファイル、プロファイル、レジストリ設定からなる配置。

**言語パック** インストールされるファイルのセットで、一部のオートデスク製品で使用されます。ユーザは言語パックで指定された言語を使用して、アプリケーションで作業できるようになります。

**言語ファミリ** 通常は地理的な分類に基づいて、一緒に配布される言語のセット(中核製品と言語パック)。すべてのオートデスク製品についてこの方法で言語が配布されるわけではありません。

**ライセンス転送ユーティリティ** オートデスク・サーバを使用して、コンピュータ間でオートデスク製品のスタンドアロン ライセンスの転送に使用されるツール。転送元と転送先のコンピュータの両方でインターネット接続が必要です。

**マルチシート スタンドアロン インストレーション** 1 つのシリアル番号を使用して、製品の複数のスタンドアロン シートをインストールするインストレーション。

**ネットワーク ライセンス インストレーション** 複数のコンピュータに製品をインストールし、ライセンスの配布は Network License Manager で処理されるインストレーション。

**パッチ (patch)** アプリケーションに対するソフトウェアの更新。

**Service Pack** 一般に多数のコード修正を含む重要なアプリケーション パッチに対するオートデスク用語。

**サイレント モード** 一切のユーザ入力が必要なインストール。ユーザの関与を必要とするダイアログ ボックスはまったく表示されません。

# 索引

## D

DirectX 9.0C 23

## M

Microsoft Installer Patch ファイル 6, 34

Microsoft System Center Configuration  
Manager 22, 24

MSP ファイル 6, 34

## N

Norton Ghost 26

## S

SAMreport-Lite 32

SATA RAID 環境 27

SCCM (System Center Configuration  
Manager) 22

SCCM パッケージ 24

## V

VBS ファイル(インストレーションスクリプ  
ト) 14

## あ

アドバタイズ, 配置を 18

アンインストール, 製品を 36

## い

インストール  
破損したインストールの修復 28

## インストレーション

アドバタイズ, 配置を 18

確認, 配置を 22

カスタマイズ 5

既定の設定 35

グループ ポリシー 18

サービス パック 6

スイッチとフラグ 16

スクリプト 13

ソフトウェアの配置 2

タイプ 3

ツールとユーティリティ 36

ディスク イメージ作成ソフトウェ  
ア 26

ネットワーク配置 2

復元, オペレーティング システム 29

インストレーション パス, 変更 35

## お

オペレーティング システム  
復元 29

## か

確認, グループ ポリシー配置を 22

カスタマイズした配置 5, 8

環境設定 5

既定の 35

管理イメージ 33

ショートカット 11

## き

既定のインストレーション 35

## く

- クライアント コンピュータ
  - 確認, 配置を 22
  - 復元, マスター システム 29
  - 割り当て, 配置を 19
- クリーンアップ, ハードディスク 29
- グループ ポリシー 18
  - 確認, 配置を 22
- グループ ポリシー オブジェクト(GPO) 20

## け

- 言語パック, 追加 21

## さ

- サービス パック 6, 34
- 再インストール, 製品を 36
- サイレント モード, スクリプト 14

## し

- システム要件, スクリプトの 13
- 実行, スクリプトを 17
- 冗長ライセンス サーバ モデル 4
- ショートカット, 管理イメージの 11
- シングル ライセンス サーバ モデル 4

## す

- スクリプト
  - サンプル スクリプト 14
  - 実行 17
  - スイッチと 16
  - 動作環境 14
  - 配置, プログラムを 13
  - フラグと 16
- スタンドアロン インストール インストール
  - スクリプト処理 13
  - 選択 4

ディスク イメージ作成ソフトウェア  
と 27

- スタンドアロン ライセンス 31

## そ

- ソース フォルダ, SCCM の 23

## つ

- ツールとユーティリティ, インストール 36

## て

ディスク イメージ作成ソフトウェア配  
置 26

## な

- ナレッジベース 31

## ね

- ネットワーク インストール インストール
  - グループ ポリシー 18
  - スクリプト処理 13
  - タイプ 3
  - ディスク イメージ作成ソフトウェア配  
置 28
  - 配置 2
- ネットワーク共有
  - 作成 7
  - 場所 32
- ネットワーク ライセンス 31, 32
  - 使用レポート 32
- ネットワーク ライセンス インストール インストール
  - 選択 3
  - ディスク イメージ作成ソフトウェア配  
置 28
  - ファイアウォール 35

## は

ハードディスク, クリーンアップ 29  
配置

- 概要 1
- 確認, インストールを 22
- カスタマイズした 5
- グループ ポリシー 18
- 作成 8
- 修正 10, 33
- スクリプト 13
- チェックリスト 2
- ディスク イメージ作成ソフトウェア 26
- 配分 19, 26
- フォルダの場所 32
- 方法 13
- 問題 31
- 割り当て 18, 19

## ふ

ファイアウォールとライセンス サーバ 35  
復元

- オペレーティング システム 29
- 破損したインストールを 28

フラグ 16

プロファイル, ユーザ 33  
分散ライセンス サーバ モデル 4

## ま

マスター イメージ 26, 28  
マスター システム 29  
マルチシート スタンドアロンインストール  
ション 27

## ゆ

ユーザ プロファイルの設定 33

## よ

用語集 39

## ら

ライセンス サーバ モデル 4  
ライセンスの種類 31

## わ

割り当て, 配置を 18, 19

